

電源車を販売、発電機・負荷試験器をレンタル

朝日電機株式会社(大阪府東大阪市)



石橋徳幸製造第一部長、久保敬修副社長、前垣雄次取締役
(左) (中央) (右)

今回は、大阪府東大阪市の移動電源車メーカー、「朝日電機株式会社（社長：齋藤昌榮（さいとう・まさえ）氏、☎06-6728-6677）」を取材した。

今年4月に発生した熊本地震により、最も被害が大きかった阿蘇地域では、長時間にわたり広い範囲で停電状態が続いた。現地で活躍したのがディーゼル発電設備を積載したトラック車両「移動電源車」である。停電発生後からしばらくの間、多数の移動電源車を投入し、最適に組み合わせて安定した給電を実現してきた。

朝日電機では、仮設電源として使用される、超低騒音型の「移動電源車」を自社開発し、大手通信会社向けなどに販売している。

また、建設現場で非常電源として使用される、「移動式発電設備（可搬型発電設備）」のほか、発電設備の定期点検で使用される、「負荷試験器」をそれぞれ自社開発し、総合建設業界向けなどにレンタル事業を展開している。

★創業の経緯★

創業者は齋藤福松（さいとう・ふくまつ）氏。兵庫県篠山市出身。現在、3代目社長として朝日電機を牽引する齋藤昌榮氏の父である。昭和23年（1948年）3月、大阪市浪速区日本橋で、工作物を固定するための万力などの工具を製造する、バイスメーカーとして創業した。昭和25年（1950年）6月に勃発した朝鮮戦争特需により売上高は伸びたが、戦後は一転して業績悪化に陥った。

そこで、業種替えを決断し、各種電源設備の開発・製造に乗り出すことにした。その一環として、昭和34年（1959年）4月、大阪市住吉区に工場と営業所を開設し、同年12月、個人事業所から法人組織へと移行し、「朝日電機株式会社」を設立した。

2代目社長として岩本 一（いわもと・はじめ）氏が就任していた時代は、ベトナム戦争特需や、



レンタル用トレーラー型電源車（上）、移動風景（下）
・1,250kVA発電装置搭載
・並列自動同期投入装置付き



ACG-375KA2型電源車 (2016年販売)

- ・ 375kVA発電装置搭載
- ・ 並列自動同期投入装置付き
- ・ モノコック型機材庫付き軽量アルミフレーム仕様
- ・ 低騒音2重防音フレーム構造

日本の高度経済成長期と重複し、国内で建設ラッシュが相次いだ。朝日電機は、杭打ち機械などの建設機械を駆動するための電源として、可搬型発電設備を開発・製造し、建設会社ほかリース・レンタル会社向けに売り込んでいった。

朝日電機は昭和40年(1965年)8月、東大阪市に本社を移転して、現在に至っている。朝日電機の所在地は、大阪府東大阪市渋川町4丁目4-37(〒577-0836)。地下鉄南巽駅に程近い準工業地域に本社・第1工場がある。

本社内に管理部門のほか、技術部門として「製造第1部」「製造第2部」「技術部」を配置している。製造拠点として「第1工場」のほか、「第2工場」「第3工場」をいずれも東大阪市内に開設している。

★移動電源車の販売に注力★

朝日電機では現在、「移動電源車の開発・製造・販売」「自家発電設備・可搬型発電設備の開発・製造・レンタル」「負荷試験器・変圧器などの発電設備の周辺機器の開発・製造・レンタル」の3本柱の事業に取り組んでいる。

そのうち、移動電源車事業については1980年代以降、情報通信機器の停電対策用として定置式の自家発電設備に加え、移動式の電源設備に対するニーズが高まった。そのニーズを受け、朝日電機では、移動電源車の製品化とその低騒音化の実現に取り組んできた。

昭和56年(1981年)2月、初号機として「低騒音型移動電源車」を開発し、販売を開始した。これにより、朝日電機の移動電源車事業がスタートした。



ACG-150DKA2型電源車 (2016年販売)

- ・ 150kVA×2台(合計300kVA)発電装置搭載
- ・ 並列自動同期投入装置付き
- ・ モノコック型機材庫付き軽量アルミフレーム仕様
- ・ 低騒音2重防音フレーム構造
- ・ 中型免許で運転可能



第1工場の250t用プレスブレーキ

さらに、平成15年(2003年)1月、アルミ合金3重モノコックフレーム構造を採用した「超低騒音型移動電源車」を開発し、販売を開始するなど、朝日電機の取り組みは常に先進性に満ちあふれている。

それは、朝日電機の特許の取得実績からもうかがえる。朝日電機では、平成17年(2005年)6月に「低騒音型移動電源車に関する特許(第3688046)」を、平成18年(2006年)9月に「同(第3859537)」をそれぞれ取得している。

昭和56年(1981年)2月に初号機を販売して以来、平成28年(2016年)5月時点で超低騒音型を含めた移動電源車の販売台数は累計で397台に達している。納入先は北海道から沖縄まで全国各地におよんでいる。

現在、軽トラック～16t大型トレーラーに搭載可能な定格出力10kVA～1,500kVA(単体750kVA×2台搭載)まで、幅広い製品ラインアップを取りそろえている。引き続き、総合建設会社、重電メー



ACG-500DNA2型電源車（2013年販売）
 ・500kVA×2台(合計1,000kVA) 発電装置搭載
 ・並列自動同期投入装置付き
 ・モノコック型軽量アルミフレーム仕様
 ・低騒音2重防音フレーム構造



レンタル用ASG1500型コンテナ発電機
 ・1,500kVA発電装置搭載
 ・並列自動同期投入装置付き



軽トラック型移動電源車

カー、大手通信会社に加え、今後、放送業界やイベント業界でのニーズに応えた移動電源車の製品化にも積極的に取り組み、販売拡大に注力していく。

★発電設備などレンタル拡大へ★

発電設備事業については昭和30年(1955年)5月、停電用予備発電装置の開発・販売からスタートした。続いて、昭和35年(1960年)1月から、各種発電設備に関する「レンタル事業」へと進出した。

昭和41年(1966年)1月にブラシレス発電設備を、昭和44年(1969年)5月に自家発電設備業界では初めてという防音型発電設備「ASAHI SILENT GENERATOR」をそれぞれ開発・販売した。朝日電機は昭和46年(1971年)6月、防音型発電設備に関する実用新案特許(第1092053号)を取得している。

昭和51年(1976年)4月、建設工事現場などで使用される「低騒音型発電設備」を開発した功績



レンタル用(販売可能)ASL400型負荷試験器
 ・400kW型負荷試験器
 ・低騒音仕様

により「科学技術庁長官賞」を受賞した。昭和53年(1978年)5月、省エネルギーを実現した「4極・8極切替型発電設備」を開発した。

一方、昭和57年(1982年)4月に海上コンテナ船の冷凍コンテナ用発電設備「GENE PACK (1,500kVA)」を、平成8年(1996年)1月に可搬型発電設備(1,850kVA)をそれぞれ製品化した。それにより、船舶用・陸用の大型発電設備のリース・レンタル事業へと本格進出した。

また、平成7年(1995年)11月に発電設備の定期点検に使用される「負荷試験器」を、同年12月に「自動始動盤」をそれぞれ製品化し、レンタル事業にも着手した。さらに、平成13年(2001年)6月に新型「静音マフラー」を、平成15年(2003年)12月に「超低騒音型空冷式負荷試験器」をそれぞれ製品化し、レンタル事業を展開している。引き続き、発電設備の周辺機器のレンタル事業にも注力していく。